心持について

宮本百合子

青空文庫

或瞬間（思い出）

正午のサイレンが鳴ってよほど経つ
　少し空腹
工事場でのこぎりの音
　せわしい技巧的なななめらかな小鳥のさえずり、いかにも籠の小鳥らしい美しさで鳴く
とつぜん　ガランガランと
　豆屋のベルの音がした。
そして私は思い出した。刑務所の
さむい朝と　夜とを、
　主として夜を
その音が　どっか遠くで順々にきこえ
いつも最後に女舎で鳴り、机をたたんで床（とこ）をしいたのを。
　今も宮がその音で床をしいているのを、
　彼の眉としまった　少しへの字にした口許とを

Обapa の気持

何だか宙で一つぐるんとぶんまわって　自分の体の上下がわからなくなったような　自分のこの社会におけるあり場所がわからなくなった感じ。
嘔気の出る感じ。

夜ふけのローソク

スエ子が、
ふっとふき消した、のにベッドのシーツのところが一部分白く、硝子もあかるく見えている。月がさしているようで、雨の音がしているのに　思わず目を上へやって見る、すると黒い幕を下からスッと急に上げたように四辺が真暗くなる、もう何も見えない。その瞬間の錯綜と或美しさ。

手紙の重み

ヒョータン形の郵便の目方はかりではかりつつ

「実際こんな手紙に　六銭はんなけゃならないなんて　癪だわ」

見て知らん振

銀座　雨もよい weekday の午後一時すぎ　むこうから特長のある石川湧の鳥打帽　タバコをふかしつつ　コバルト色のコート　傘の若い女と並んで歩いて来る、女私の前を通すぎるとき　傘を傾けて顔をかくしてしまう　湧　煙草をふかし　こっちを見、しかし　知らぬものを見ているように見て通りすぎてしまう。

朝　ロク　洗面所で

「この頃　＊＊人(ジン)が　石川湧にフランス語を習ってるんだって」

「フーム」

「唯ケンを出てしまったんだってね　盛ニユイケンのわる口　云ってたそうだ」

「こわくなってやめたんだろう　この頃狙われてるから」

「ナカナカ悧口だって云ってた」

「ふむ　それがね　どうも……」

あの若い女のひとと彼とのこと

その彼ときょうの女とのこと　いろいろ

○彼女が身のまわりに持っている雰囲気の中には
常にある爽やかさがあった。
それが生活の或時期では健康さと芸術に対する野心から
次の時期には単純であるが確信に満ちたガンばりから
そして最近それは度々の鍛練によって引しまりやきがはいり、ばねはつよく正確になって、
落付きしかも一層澄みとおったような爽やかさとなって来たのを○子は感じた。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十八巻」新日本出版社
1981（昭和56）年5月30日初版発行
1986（昭和61）年3月20日第2版第1刷発行
初出：同上
※「＊」は不明字。
入力：柴田卓治
校正：磐余彦
2004年2月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

心持について

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/